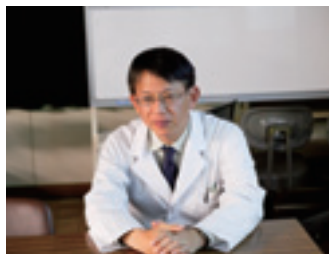


### しびれから物忘れまで全神経疾患に対応

対象とする疾患は脳・脊髄・末梢神経・筋肉の疾患と広範囲に及び、超高齢社会を迎え患者数は急増しています。正確な臨床診断の下に適切な治療を行うことで、「治る神経内科」を目指し、診療に取り組んでいます。



#### 診療体制

外来患者は年間約2万人。神経学会専門医をはじめとして、脳卒中専門医、てんかん専門医、認知症専門医などにより、高度の専門性を有する診療を展開しています。精密な診察をベースに、的確な検査、患者さん個々に応じたきめ細かな治療を提供しています。

#### 対象疾患

パーキンソン病、てんかん、脳血管障害、アルツハイマー病などの認知症、筋萎縮性側索硬化症などの運動ニューロン疾患、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、頭痛、脳炎、脊髄障害、内科疾患に伴う神経合併症など。

#### 診療、研究実績

##### 一般的な診療についての実績

入院件数は年間約500件。国内外の神経内科施設の中でも各種専門医が多く集結し、本邦のパーキンソン病やてんかん治療ガイドラインの委員を務めるなど、多種の神経疾患診療が可能となっています。また、病院内の他科、他部門、国内外の施設との連携・チーム医療を行っています。

##### 高度医療の取り組み・研究

###### ①ポジトロンエミッションCT

脳機能総合研究センターなどと共同で、脳血流ポジトロン断層検査による難治部分てんかん、認知症、パーキンソン病などの病態の把握に役立っています。

###### ②硬膜下電極モニタリング

長時間ビデオ脳波モニタリングや、硬膜下電極留置によるモニタリングも行うことにより、正確な焦点の同定と周辺皮質機能局在の検索に努めています。

###### ③遺伝子診断

遺伝子診療部とも連携し、倫理面に十分配慮しながら、各種遺伝性神経疾患の遺伝子診断を行っています。



### 腎臓病のトータルケア

腎臓の病気は腎臓だけのこともあれば、高血圧や糖尿病、薬物による障害など二次的なものも少なくありません。尿検査から腎生検まで可能な限りの検査と豊富な知識で的確な診断を行い、それに基づいて最適な治療を行います。また末期腎不全に対し、もっとも的確な透析療法を導入しています。

#### 診療体制

腎疾患、腎不全外来、腹膜透析外来、腎臓病教室を通じて、すべての腎疾患に対し、ご要望に沿った積極的治療を展開しています。腎炎や移植腎に対する腎生検組織診断をはじめ、末期腎不全に対するシャント作成術、透析の導入（血液透析、腹膜透析）、透析の合併症の治療を一貫して行っています。

#### 対象疾患

急性腎障害、慢性腎臓病、末期腎不全、急性腎炎、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎性高血圧、腎硬化症、糖尿病性腎症、ループス腎炎、ANCA関連腎症、薬剤性腎障害、遺伝性腎疾患（多発性のう胞腎、アルポート症候群など）、血液透析導入、腹膜透析導入、透析合併症（シャントトラブル、二次性副甲状腺亢進症、アミロイドーシスなど）

#### 診療、研究実績

##### 一般的な診療についての実績

平成22年病理診断を行った腎生検45例（移植腎を含む）、新規血液透析導入46例、腹膜透析治療中患者20例、ブラッドアクセス手術78例

##### 高度医療の取り組み・研究

###### ①先進的血液浄化療法

腎疾患に対して通常の血液透析だけでなく、無酢酸透析、血液濾過透析、血液吸着、血漿交換、白血球除去など先進的なあらゆる種類の血液浄化療法を行っています。

###### ②薬剤性腎障害

服用する薬の種類は年々増加し、それによる腎障害も増えています。薬剤性腎障害の発生の機序の解明の研究を薬剤部とともにを行い、薬剤による腎障害の発生予防や治療法の確立を目指しています。

###### ③IgA腎症に対する治療法の確立

慢性糸球体腎炎はもっとも多い腎炎ですが治療法は確立されていません。最少限のステロイドを使った治療法の臨床的研究を行っています。

